

# 広げよう コミュニティの輪

彩の国コミュニティ協議会



みんなで節電しましょ!

彩の国コミュニティ協議会マスコット サイコミ君



埼玉県のマスコット コバトン

2011.8 第33号

## CONTENTS

主な内容

**P2** | 今日から始める 節電大作戦

**P3** | つなげよう 地域の力  
～外国籍住民を支える地域づくりを目指して～  
**市町村紹介**

・横瀬町コミュニティ協議会

**P4** | 平成23年度定期総会報告

- ・会長あいさつ
- ・コミュニティ協議会の役員に対する永年表彰
- ・協働事例発表会

## 彩の国コミュニティ協議会 会員® 賛助会員募集 !!

コミュニティ活動をさらに活発にするために、協議会の趣旨に賛同し協力していただける新規会員、賛助会員を募集しています。入会、お問い合わせについては当協議会事務局まで御連絡ください。

賛助会員だけの  
入会特典

**会員** ●対象：企業・団体  
●会費：企業 1口5,000円を2口以上  
団体 1口5,000円を1口以上

**賛助会員** ●対象：個人  
●会費：1口2,000円

入会記念としてサイコミ君のストラップとプリズム反射シールをプレゼント!

## お知らせ

「プチ情報」への情報掲載を希望される会員の方を募集しています。詳細については事務局へお問い合わせください。

おまちしてます

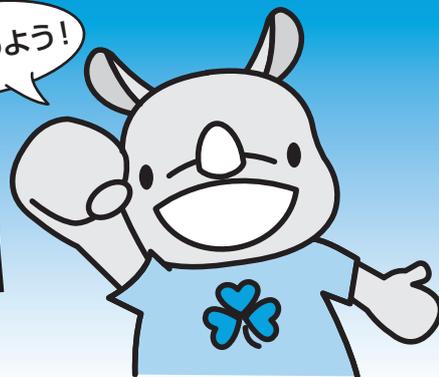


SWITCH OFF!!

今日から始める

# 節電大作戦

さあ始めよう!



東日本大震災の影響で電力の供給が落ち込んでいる今、彩の国コミュニティ協議会では、平成23年度の新規重点項目として省エネルギー（節電等）の推進に取り組んでいます。

6月28日(火)には、生活学校運動の県大会として公益財団法人あしたの日本を創る協会の金森房子理事を講師にお迎えし、省エネと温暖化防止について御講演をいただきました。

その中から、家庭で実践できる節電対策について御紹介します。

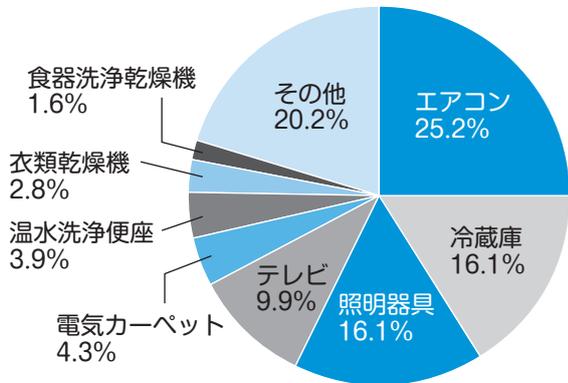
## 我が家のエネルギー消費量チェック



日本の二酸化炭素排出量は約2割が家庭からの排出であり、増加率も大きくなっています。

この講演をきっかけに、県内の生活学校ではエネルギー消費量が目で見てわかる機器「ワットアワーメーター」や「省エネナビ」を活用した節電対策に取り組んでいます。また、専用の機械がなくても家庭の電気メーターを毎日チェックすることにより、どのような時に電力消費量上がるのか調べることができます。家電の使用を見直すことで、身近なところから節電に取り組んでいきましょう。

### ●家庭における消費電力量ウェイトの比較



【出典：資源エネルギー庁 平成16年度電力需給の概要（平成15年度推定実績）】

### ●家電別 節電対策

エアコン	室温28℃を心がけましょう。 “すだれ”や“よしず”などで窓からの日差しを和らげましょう。
冷蔵庫	設定を「強」から「中」に変えましょう。 扉をあける時間をできるだけ減らし、食品をつめこまないようにしましょう。
照明	日中は照明を消しましょう。 夜間も照明をできるだけ減らしましょう。
その他	リモコンの電源ではなく、本体の主電源を切りましょう。 長時間使わない機器はコンセントからプラグを抜きましょう。

### 熱中症にも注意!

まだまだ残暑の続くこの時期、エアコンの控え過ぎによる熱中症にも注意が必要です。熱中症は、めまい、頭痛、吐き気、倦怠感などの症状から、ひどいときには意識を失い、命が危険になることもあります。適切なエアコンの使用と水分補給で体調に合わせた節電を心がけてください。

### ●以下のホームページも取り組みの参考になります。

- 埼玉県「節電対策」 : <http://www.pref.saitama.lg.jp/page/lifesummer.html>
- 埼玉県「熱中症予防」 : <http://www.pref.saitama.lg.jp/site/netsuchusyo/>
- 資源エネルギー庁 : <http://www.enecho.meti.go.jp/>



第33回郷土芸能市民のつどい 民謡・民舞、大正琴など郷土芸能の発表を行います。

日時：平成23年10月30日(日) 場所：行田市産業文化会館 お問い合わせ先：郷土芸能市民のつどい実行委員会 048-555-0244

# つなげよう 地域の **カ** ちから

彩の国コミュニティ協議会は、様々な主体が共に助け合いながら地域社会づくりが進められるよう、地域の「つなぎ役」として支援・協力を行っています。そんな地域のパワフルな活動を皆様に毎号お伝えしていきます。

## NPO法人と行政の協働 外国籍住民を支える地域づくりを目指して 「快適生活情報クリップ」

特定非営利活動法人  
ふじみの国際交流センター  
埼玉県県民生活部国際課

在日外国人の自立支援を行う(特)ふじみの国際交流センターは、県国際課との協働で多言語による生活情報冊子を作成し各方面に配布しています。

### ●協働のきっかけ

平成22年度に県が実施したNPO協働提案推進事業において、(特)ふじみの国際交流センターが提案。県国際課が賛同し、外国籍住民が安心して暮らすことのできるよう、双方が持つ情報やノウハウを活かして生活に必要な基本知識をまとめた冊子を作成することとなった。

### ●メリット

**NPO**：県に内容のチェックをしてもらうことで、より正確な情報を自信を持って掲載することができた。また、各市町村を通して、実際に外国人と関わっている団体や日本語教室へも配布することができた。

**行政**：団体が長年にわたって行っている相談事業等の豊富な経験から、外国籍住民が必要としている情報を的確に把握していると感じた。事例が具体的に冊子へと反映されており、使いやすいものが出来上がった。



今後も、(特)ふじみの国際交流センターではテーマ別に同様の冊子を作成していく予定です。現在、冊子を無料配布中ですので、皆様の地域でも多文化共生のまちづくりの一助としてぜひ御活用下さい。(送料のみ御負担いただきます) **特定非営利活動法人 ふじみの国際交流センター**【TEL】049-256-4290

## 市町村コミ協の **魅力** 発見!

県内には70の市町村コミュニティ協議会(=コミ協)が地域性、特性を活かして活動しています。あなたがお住まいの地域のコミ協はどんなところでしょう??



### 横瀬町コミュニティ協議会

横瀬町コミュニティ協議会は、「町民の自主的なコミュニティ活動を通じて、町民の心ふれあう住みよい地域社会を構築すること」を目的として、昭和56年2月に設立されました。

現在、横瀬町内7地区すべての地区から、地区を代表するコミュニティ団体(7団体)が加盟し、各団体が活発に活動しています。

協議会の主な事業としては、地域のお年寄りに健康で元気に過ごしていただくため、そして、地域コミュニティの活性化を図ることを目的として、平成22年度から「健康づくり体操教室」を実施しています。この事業は、講師に健康運動指導士を招いて、「健康に関する講演」をはじめ、「健康づくりや寝たきり予防に有効かつ手軽で無理のない体操を体験」するものです。

これからも、このような事業を実施することによって、コミュニティの活性化、そして、町民の心ふれあう住みよい地域社会の構築を目指していきたいと考えております。

事務局：横瀬町まち経営課【TEL】0494-25-0112



地域に広まる健康の輪

# 平成23年度定期総会開催報告

平成23年6月9日(木)、平成23年度定期総会を開催し、多くの方々に御出席いただきました。役員表彰や事例発表会が行われたほか、平成22年度事業報告や平成23年度事業計画等について審議が行われ原案どおり承認されました。



## 会長あいさつ



会長の上田知事

本日は、「彩の国コミュニティ協議会」平成23年度定期総会を開催しましたところ、役員の皆様をはじめ、会員の皆様には大変お忙しい中御出席いただき、誠にありがとうございます。また、日ごろ

防犯活動や子育て支援活動など、様々な地域社会のコミュニティづくりに御貢献いただいておりますことに厚く感謝申し上げます。

さて、埼玉県では、このたびの東日本大震災で避難を余儀なくされた福島県双葉町1,400人弱の方々を、役場機能も含めて受け入れを行いました。これは、「地域社会の絆であるコミュニティを崩してはいけない」という双葉町長の強い思いを受けたものであります。現在も旧県立騎西高校では1,000人近くの方々が日々寝起きをされています。まさしく、ひとつのコミュニティを避難所の中で築いていらっしゃる、コミュニティの力がどれほど社会に重要なのか改めて震災を通じて感じたところです。

さて、皆様に行っていただいている民間の防犯パトロールにより、県内の住宅侵入犯は約70%減少いたしました。住宅侵入犯は再犯が多く何度も犯罪を繰り返すことから、地域コミュニティの強いところでは犯罪が起こりづらく、弱いところで起こりやすいということがあります。また、犯罪が多いところでは警察官が捜査等に時間を取られ抑止力がなくなることで更に犯罪が増えるという悪循環に陥ります。これを皆様の防犯パトロールの力で、住宅侵入犯を減らせば警察に余力が生まれ、その余力でさらに取締りを強化することにより犯罪が減るというプラスの循環に変えていくことが大切なことであると感じております。

中学生の不登校問題についても同じことが言えます。中学校で不登校になると学力が落ち、高等学校に進んでも中途退学につながる可能性が高くなっています。中学生の不登校を減らすためには、地域社会の見守り活動が大切であり、コミュニティ協議会の役割がますます大きなものになってくると感じております。

後ほど子ども大学かわごえによる事例発表が予定されています。「なぜ1+1=2なのか」という根源的な部分に迫る授業を大学の先生などから教えていただくことは、子どもたちにとって改めて科学の力や学問の本質に触れる良い機会になると思っています。

このような新たな試みが地域で起こっていくことを期待し、今後とも各会員の皆様の地域での活動をより一層活発にさせていただきますよう心から祈念して、あいさつとさせていただきます。



コミュニティ協議会の役員に対する  
永年表彰

彩の国コミュニティ協議会及び市町村コミュニティ協議会の役員として20年以上にわたり尽力された方々に対する永年表彰を行いました。(受賞者28名)



協働事例発表会

NPO法人子ども大学かわごえの酒井理事長(左)をお迎えし、御講演をいただきました。

